事務事業評価シート（評価実施年度：平成２７年度）

上位の施策名称	施策Ⅰ－６－２　航空路線の維持・充実

１.事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	交通対策課長　伊藤　宏	電話番号	0852-22-5898

事務事業の名称		出雲空港路線の維持・充実事業
目的	（１）対象	出雲空港利用者
	（２）意図	出雲空港の大都市圏でのＰＲ、利用促進キャンペーン等の利用促進事業を実施し、利用者を増やすことにより、路線の維持充実に繋げ、利便性を向上させる。
事業概要		・出雲空港の大都市圏でのＰＲ、利用促進キャンペーン等を実施し、利用者の拡大を図るため、21世紀出雲空港整備利用促進協議会に対し、事業費の一部を補助する。 ・航空会社に対して、路線の維持・充実を図るために、増便や機材の大型化、運賃の低廉化などについて、要望活動を行う。

２.成果参考指標

			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
(1) 成果参考指標	指標名	出雲空港の乗降客数	目標値		700.00	700.00	770.00	800.00	千人
	式・定義	出雲空港国内定期便の年間乗降客数	実績値	634.00	696.00	834.30	785.00		
			達成率		99.40	119.20	102.00		%
	指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
	式・定義		実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

３.事業費

	２６年度実績	２７年度計画
事　業　費（b）（千円）	19,465	17,939
うち一般財源（千円）	19,465	17,939

４.改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中

５.評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・平成26年度の羽田線の利用者数は、約59万９千人（前年比９３.４％）であり、冬季の顕著な落ち込みが見られず、昨年度に引き続き好調な利用状況となった。
・札幌線（新千歳）が４年ぶりに季節便として運航し約３，６００人の利用実績につながり、また、名古屋線が２６年度末に約10年半ぶりに運航再開し、高い利用率を維持している。
・大阪線の利用者数は、前年比９０％と減少、福岡線は上期ダイヤが３往復に増便されたことにより、利用者数は前年比105%、隠岐線は夏場の利用者が多く前年比103%となった。
・平成２６年度の出雲空港の乗降客数は、前年比94%とやや減少したが、出雲大社の大遷宮の効果の継続などにより、引き続き高い水準を維持している。
・名古屋線の再開、本年度の東京線が利用状況を踏まえ、平成２７年度目標値を「８００千人」に再設定。

６.成果があったこと（改善されたこと）

・羽田線の平成２７年1月、2月の利用者数は、前年を上回る実績となったが、平成24年度から実施している冬季の利用促進策が定着し、旅行業者が積極的に旅行商品の造成に努めたことも大きな要因の一つ。
・２６年度は、羽田線は年間を通じて、機材の大型化が図られ、中型機が3便運航した。また、下期から小型機が1便増便され、６便化された。
・H27年上期ダイヤから、新たに75日前から予約可能な先得割引が羽田線に追加され、運賃低廉化につながった。
・名古屋線が10年半ぶりに運航再開し、ＦＤＡにより１日１往復運航され、７０％以上の利用率を維持している。

７.まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・冬季は、航空路線を利用する首都圏からの観光入込客の落ち込みが顕著になる傾向がある。
・山陽側の空港と比較して、正規運賃は大きく変わらないものの割引運賃に依然格差がある。

②困っている状況が発生している「原因」

・冬季において、観光客など乗客を増やす取組みや仕掛けをさらに工夫していくことが必要であること。
・羽田線の通年の増便又は機材の大型化を図っていくためには、さらなる航空需要の拡大や、航空会社との調整が必要であること。

③原因を解消するための「課題」

・年間を通じて、安定的な航空需要を確保していくために、観光部局や周辺市町と連携して、冬季を中心として、効果的な利用促進策を検討してく必要がある。
・増便・機材の大型化、割引運賃の充実や、利便性の高いダイヤの見直しを航空会社と調整していく必要がある。

８．今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・観光部局、周辺市町等と連携して、冬季観光キャンペーンの実施など効果的な利用促進対策に取り組み、首都圏からの誘客増加を図っていく。
・羽田空港発着枠の配分に際して、地方空港路線への優先配分など地方航空路線への配慮を国に要望していく。
・航空会社と、増便や機材の大型化、利便性の高いダイヤ見直し、割引運賃の充実などについて、粘り強く調整していく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

９．追加評価（任意記載）